

森国久顕彰会 設立趣意書

森国久顕彰会

会長 米満弘之

このたび、私たち天草に縁のある有志が準備をすすめ、平成 29 年 4 月、「森国久顕彰会」を設立する運びとなりました。

本会の目的は、第一に、天草諸島をめぐる環状道路網の整備、天草五橋の建設、雲仙天草国立公園の実現、観光事業の振興、上水道の整備をはじめ、昭和 20 年代から昭和 30 年代にかけて離島天草の地域の発展と全国の離島振興に多大の力と情熱を注いだ森国久の遺徳と功績を末永く顕彰することです。

第二の目的は、本顕彰事業をとおして「天草は一つ」の旗印の下、天草の今後の振興・発展に寄与することです。

第三の目的は、森国久が、地域課題の発見からその実現にいたるまで、常に住民の立場に立って住民とともに歩むという「真の住民自治」のひな形を、未来への大きな遺産としてのこしてくれていることを、離島に限らず、広く全国の方々に知らせることです。

森国久は明治 45 年（1912 年）7 月 10 日、天草の樋島に生まれました。大正 14 年（1925 年）に地元の小学校を、次いで旧制中学校（5 年制）を卒業すると、当時日本の統治下にあった朝鮮に単身で渡り、新聞記者になります。

そののち、兵役、警察官、団体役員を経て、昭和 26 年（1951 年）樋島村村長に選ばれ、初代龍ヶ岳村村長、初代龍ヶ岳町長を歴任しました。首長として生涯を閉じる直前までの最後の 10 年間、森国久は清廉潔白、自治自立、無私で住民につくす公僕として働き続けました。

地方政治家として、全国の地方自治の模範となった町独自の福祉条例の制定をはじめ、当時としては先進的な施策を次々と打ち出しました。森国久の政治の構想力と実行力は一町一村の地域振興にとどまらず、天草諸島全体の地域振興、日本全国の離島振興に及びました（別添の「森国久の略歴」をご覧ください）。とりわけ全天草にとって、国立公園への天草編入実現、天草諸島の環状道路の実現、ならびに天草架橋の着工までの確固たる道筋をつけたことは、森国久の最大の功績と言えるでしょう。

森国久は、10 年間、天草架橋着工を確かなものにするためにかけずり回った過労により、昭和 36 年 6 月 1 日に熊本市内でたおれました。そして「橋はまだか、橋はまだか」とうわごとを言いつつ、6 月 26 日、架橋の完成を待たずに、48 歳でこの世を去りました。

天草架橋の着工が決定されたのは、かれが急死した翌月の 7 月のことでした。やがて大規模な架橋工事が始まり、4 年あまりの歳月をかけて昭和 41 年（1966 年）9 月 24 日、ついに悲願の天草五橋は完成しました。全天草島民のために多大の犠牲を払った森国久は、きっと今でも五橋のたもとで、人々の往来を見守り、人々の安全を祈り続けていることでしょう。

設立の趣旨にご賛同頂けますならば、老若男女の別なく個人の資格で、あるいは団体の資格でご入会くださることを、一同心よりお待ちしております。